

2024 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [宮城県宮城野高等学校] 担当教諭名 [鈴木 幸恵・阿部 彩] (国際・語学ゼミ 45名)
 相手国・地域 [サウジアラビア]
 海外学校名 [International Programs School] 担当教諭名 [Saira Muhammad]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教科	単元名	時間数
	総合的な探究の時間	SDGs Goal13「気候変動」	39

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	The symbiosis of human and nature
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	Currently, climate change is affecting the earth, causing extreme weather and raising sea levels. Let's aim for a sustainable society and set decarbonization as a goal to prevent climate change! Let's realize coexistence between humans and nature by popularizing renewable energy such as solar power and plant power generation! (太陽光発電、植物発電等の新しいエネルギーで人と自然の共存を)



■今回の取組の成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
サウジアラビアは石油大国で廃油のリサイクルとバイオレメディエーション技術の発展、日本は石油を海外に依存という点で環境を考えたバイオ製品の技術が進んでいることが明確になった。そこから日本側の「使い捨て」製品の発展、日本の「便利さ」「清潔さ」を好む傾向は環境の点で良いのかという疑問を生んだ。砂漠の環境から植物発電、CAM 植物に目が向いた。	相手側では当初昼休みに活動という計画、本校の活動時間は6, 7校時、という事情により、相手側で1時間目に公欠で対応し5日に渡りオンライン会議を実施した。それを元にForumで議論を深め、解決策を考える予定だったが、会議自体に時間を要し、さらに思うように回答が得られず苦心した。難易度が高く、理解、疑問、解決法を得るまでに時間を要した。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
活動前は異なる同世代と話し合うことに疑念を持っていたり、自信が無かったり、前向きな要素が少なかったが、活動を通して言語上は十分に伝わらなくても相手の考えを聞くことを面白いと実感し、他国の問題について自分たちも考えなくてはという気持ちが生まれ、新しいアイデアや双方の考えを融合する案を作るのが好きだと自らの特徴に気づいた生徒もいた。	どうしたら相手の先生がもっと時間をかけてくれるのか、相手校の生徒から直接声を集められるかを考え、日本側の担当者という立場から双方の担当者という意識が変わっていった。日本側は、当たり前の「便利さ」「清潔さ」に目を向ける機会になったが、相手国側の「将来に向けて問うべき当たり前」は何だろうと考えている。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	5月 ～ 7月	G13「気候変動」を元に、班毎にウェブマッピングで考えを膨らませた。その中で最も気になる点に関して調べ学習、スライド作成、音声入力をし、オンライン会議に備えた。	気候変動に関する現状、将来への危惧、具体的な影響について、身の周りの事象から取り上げ、班毎に熱心に話し合い、自主的に係を決め、生まれたアイデアを形にしていっていった。	総合12
共有 相手と意見交換	9月 ～ 11月	互いに5つの班に分かれ、絶滅危惧種、砂漠化、石油問題などについてMeetで議論を行った。そこから生まれた疑問を相手に投げかけた。	数名毎の発表で、難易度の高い部分をフォローしながら進められたためか、理解しようと集中し、積極的に質疑応答した。発表後は相手の環境で何ができるか熱心に議論した。	総合14
融合 メッセージ作成	11月 12月	議論からの解決策、迎えたい未来、その未来のために私達ができる事を付箋に書いて整理。題名とメッセージ、全体の構図、絵の要素、取材とForum投稿の4つの班毎に活動。	筆者から方針を出すと、班毎に自然にリーダーが生まれ、意見を引き出し、まとめようとする姿、班を繋いで全体をまとめようとあちこちの班とコミュニケーションをとる姿が見られた。	総合6
創造 壁画制作	12月	相手の意見との融合、合意を得た後、下絵作成、塗布を行った。	相手側の状況、これまでの議論を振り返り、協働の作品を作ろうと相談、塗布当日大会参加で不在の生徒のアイデアを生かそうと連絡を取り合いながら協力して塗布に取り組んでいた。	総合5
評価 振り返り 自己評価	3月	日本の「便利さ」「清潔さ」に関して共有、相手からの活動を振り返る動画、壁画共有と写真撮影後、自己評価ルーブリック(筆者作成)を用いて自己評価を行った。	友人やサウジアラビアの生徒と協力して来た内容が壁画として表されたことに感動し、「厳しい世界状況だが、このような温かい交流の場が広がって欲しい。」と述べる生徒もいた。	総合2

■アートマイルでつけた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つけた力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化を理解する力	4	洗練された学校や施設、発電方法や石油リサイクルに関する技術発展の一方、不十分な下水システムのギャップに驚いた。また、日中の気温による生活スタイル、公共交通機関の運用、砂漠の影響など、日本と異なる状況への気づきが多かった。
主体的に考え行動する力	4	テーマに関する班毎の議論、壁画に関わる分担作業で、筆者の最小限の指示を元に数名のリーダーが周囲の意見をまとめて積極的に動く様子が見られた。オンライン会議では、話題に上がった内容の写真をその場で見せたり、互いに理解を確認したり、相手に質問をした。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	相手との環境の違いに隔たりがあるため、「植林と言っても水は十分にあるのか」、「太陽光発電のリスクは？」等の疑問が出た。公共バスの話題では「バス停で待っている時間が大変」、日本ではあまり馴染みのない石油リサイクルの話題で異なる点への気づきがあった。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	5	オンライン会議では相手の発表内容を理解しようと集中し、質問をしようとする姿、相手の考えを尊重しながら、題名、テーマ、壁画デザインを組み立て協働でゴールを目指そうとする姿が見られた。日本側の議論でも友人の意見を引き出し、最善を尽くそうとする態度が見られた。
想いを表現する力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	メッセージに関しては、相手側の思いに想像を膨らませながら、リーダーが積極的に周囲の意見をまとめた。壁画に関しては、議論の中で重要だった点、相手が何を表現したいのか考え、デザインを数回作り直し、参加した生徒全員の思いが籠もった作品にしようとした。